

教育委員会だより

令和7年2月27日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

力作が一堂に集結！ ～第60回 土と版画展～

2月1日（土）から3日（月）の3日間、バロー文化ホールを会場に『第60回 土と版画展』を開催しました。造形活動を通して子供が作り出した作品に感動したり自分の作品を慈しんだりすることをめざし、多治見市が長年に亘って大切にしている展覧会です。本年度も市内幼・保・小・中と東濃特別支援学校（市内在住）の児童生徒の力作約900点が勢揃いしました。それぞれの作品は学年の発達の段階に応じた造形活動となるよう、各学校で工夫がなされています。また、作品の発展性が伝わるよう多治見市図工・美術教育研究会の先生方がレイアウトも工夫してくださいました。



来場者は3600人を超え、昨年度の2倍となりました。ご家族連れが多く、我が子の作品の前で写真撮影をする姿やお孫さんの作品をご夫婦で探す年配の方の姿も見られました。思わず会話が弾む様子から、この展覧会が家族で過ごす素敵な時間にもなっていることを感じる事ができ温かな気持ちになりました。

食の安心の一助に ～新小学1年生保護者試食会～

2月12（水）から14（金）の3日間、食育センターで給食試食会を実施しました。合計70人ほどの方が参加し、施設見学や講話、試食等を行いました。我が子の入学は楽しみである一方、給食一つをとっても心配や不安があることでしょう。そんな親御さんにとって、学校給食についてご理解いただくとともに、家庭での食育について考えていただくよい機会となりました。



参加いただいた親御さんの感想を紹介します。
「子供たちのために産地などにもこだわり、季節の行事に関するメニューを考えたり、コロケやルーも手作りだったり、親として安心しました。想像以上に食育に対するたくさんの心遣いがあり、多治見の子供は幸せだなあと感じました。」

認められる喜び ～教育長賞詞・各種表彰～

16年前から子供の“善行”を顕彰している『教育長賞詞』。本年度も、全小・中学校で52件（個人40、団体12）の受賞が決定しました。各学校や地域団体から推薦を受けた児童会・生徒会、ボランティアグループなど多岐に渡る内容を『チャレンジ大賞』『元気大賞』『思いやり大賞』の3部門で表彰します。2月末までに、教育長が各学校へ赴き、楯（団体）やメダル（個人）を手渡しました。

いわゆる“善行”については、校内で認められる機会はあるものの、このような形で表彰を受けることはあまりありません。“心根の良さ”をしっかりと認めることで、健やかな多治見の子が育つことを願っています。

また、この時期は県教育委員会や外部団体からも様々な表彰のお知らせが届きます。ここで市立幼稚園、小・中学校のがんばりを紹介します。「おめでとう！」



- ・県教育委員会[岐阜県学校安全優良校表彰]：小泉中学校
- ・県教育委員会[児童生徒の体力優良校表彰]：陶都中学校
- ・県教育委員会[岐阜県ふるさと教育表彰] 優秀賞：市之倉小学校
- ・県人権教育協議会[人権文化あふれる学校賞]：小泉中学校
- ・県人権教育協議会[ひびきあい賞]：昭和小附属幼稚園・笠原小附属幼稚園・市之倉小学校・池田小学校・笠原小学校・小泉中学校・南姫中学校

副教育長のひとりごと ～地域行事への参画・貢献～

2月15日（土）、バロー文化ホールで『青少年まちづくり市民大会』が開催されました（主催：多治見市青少年まちづくり市民会議）。共栄・昭和・小泉の3小学校区の実践発表に加え、南ヶ丘中学校吹奏楽部の演奏が花を添えました。

これまで「多治見の子は地域行事への参加に課題がある」といわれてきました。しかし、ここ数年の小・中学生ボランティアへの積極的な参加には目覚ましいものがあります。今回も十数名の中学生スタッフがそれぞれに役割を担い、会の運営に奔走していました。一昔前なら地域の方の指示を待って動くのが子供の姿でした。しかしこの頃は、役割を理解し自分で考えて行動する、企画段階から参画するなど、地域の一員としての存在感を増しています。参加・協力から参画・貢献へと高まってく姿は、本当に頼もしい！

